

Fluoride-News

米国における水道水フロリデーション実施 (2018年) 73.0% !! (2020.9.8公表)

(<https://www.cdc.gov/fluoridation/statistics/2018stats.htm>)

今回の結果は、2018年12月31日現在において、Water fluoridation Reporting System (CDC) に各州が報告したデータを基に作成されたものです。なお、人口は、2018年7月時点の州人口推計（米国国勢調査局）、2015年時点の公共水道による人口推計（米国地質調査所：2018年6月19日公開済み）より算出されています。

米国における水道水フロリデーションの実施率は2年ごとに公表されており、2018年統計結果によると、73.0%となっています。公共給水システムを利用している国民のうち2億742万人以上が適正な濃度に調整されたフロリデーション水を利用していることとなります。前回（2016年調査）より、約586万人の増加となっています（図1）。

また、51州のうち、実施率は43州で50.0%を超えており、その内28州は75.0%を超えています（図2）。

昨年度から続いているCOVID-19の影響により、わが国では、スクールベースで普及しているフッ化物洗口が中止されているところがあります。しかし、米国のワシントン州スポケーン市（ワシントン州の5大都市の1つ）では、この危機に直面し、今まさに地域の予防対策の充実が必要であるとの判断から、水道水フロリデーションの導入が市議会で決定されています^(注)。スポケーン市はワシントン州の5大都市で唯一水道水フロリデーションが実施されていなかった都市です。With COVID-19の環境下で、有効で有意義な決断がなされたものと思われます。わが国では、未だ水道水フロリデーションの実施には至っていません。また、虐待や貧困の問題が今回のCOVID-19の発生で、浮き彫りにされた面もあります。このような環境下で、スポケーン市のように、「上流の健康問題を防ぎ、資源不足のコミュニティの公平性を促進し、医療システム全体へのコストを軽減し、地域社会のすべての人に利益をもたらす続ける」公衆衛生的利点の高い水道水フロリデーションの導入の声をあげ、必要性を伝えることが、今こそ重要（必要）であり、これからも我々の使命であると感じています。

（文責 田口千恵子）

（注） ADA News, 2020.11.11. [Spokane moving forward on possible adoption of community water fluoridation \(ada.org\)](https://ada.org/2021/1/6/ADA-News-2021-1-6) (2021.1.6 アクセス)

** 2016年のデータから、人口の推定値を計算するための新しい方法が適用されています。2016年以前は、多くの州で公共水道システムの利用人口の推定に対し、民間の住宅井戸や公共水道システムを利用していない住民の考慮が十分ではありませんでした。そのため、新たに米国地質調査所の公共水道水システム利用に対する州人口の割合を活用し、州ごとに適切に要因が調整され、各州の人口割合を修正し算定されています。

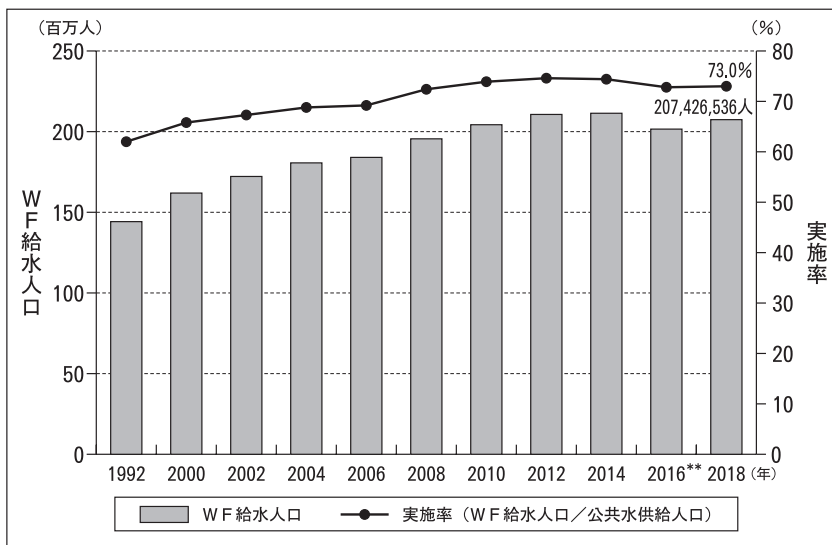


図1 米国における水道水フロリデーション実施推移 (1992～2018年)

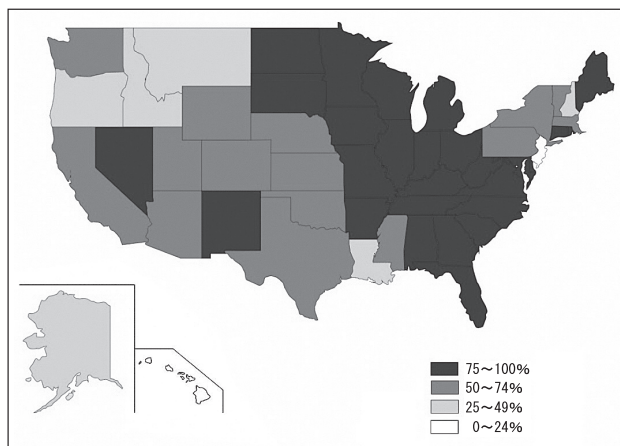


図2 各州の水道水フロリデーションの実施状況 (2018年)